

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：環境経済・政策論 ILAS Seminar: Environmental Economics and Policy			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 浅野 耕太		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2018・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	1 回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	人間・環境学研究科棟3階331演 習室			使用言語	日本語
キーワード	環境経済 / 環境政策						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
<b>[授業の概要・目的]</b>							
様々な領域で実施されている環境政策に関して、その必要性や評価軸を標準的な教科書を輪読することによって学ぶ。また、環境経済の基本原則や環境政策の実際の形成過程を理解することを通じて、良き環境政策のありかたを考究する。							
<b>[到達目標]</b>							
環境経済学や環境政策論の基礎的概念とそれを用いた環境政策分析の手法を修得し、幅広い環境問題の理解に応用できるようになること。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
第1回 イン트로ダクション 教科書の概要を説明する。基本的な参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。							
第2回～第13回 教科書の精読 受講者は教科書の節をそれぞれ分担し、その内容を報告する。 以下のようなテーマそれぞれについて2～3週の授業を行う予定である。							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済と環境</li> <li>2. 最適汚染制御の経済理論</li> <li>3. 環境政策：政策選択</li> <li>4. 環境政策決定における経済情報と諸価値</li> <li>5. 気候変動の経済学</li> </ol>							
第14回 まとめ それまでの精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。							
<b>[履修要件]</b>							
後期に開講される環境経済・政策論基礎ゼミナールとの連続履修を推奨する。 スタート時点では経済学の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については自学自習を求める。							
ILASセミナー：環境経済・政策論(2)へ続く							

ILASセミナー：環境経済・政策論(2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

平常点(30点)、報告内容・貢献(70点)により総合的に評価する。個別の成績評価基準は第1回目の授業で説明する。

**[教科書]**

Stephen Smith 『Environmental Economics: A Very Short Introduction』(Oxford University Press) ISBN: 9780199583584

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

毎回事前に教科書を読んでおき、疑問点を整理した上で、授業に参加すること。

**[その他(オフィスアワー等)]**